

目 次

ごあいさつ	学 長 田中 正人	
富山県立大学二十年史発刊に寄せて	富山県知事 石井 隆一	
第1章 小 史		
I 20年間の歩み		3
第2章 教 育		
I 工学部		11
II 大学院		39
III 短期大学部本科、同専攻科		44
IV G Pプログラム、FD活動及び授業アンケート		57
第3章 研 究		
I 工学部、工学研究科		65
II 短期大学部本科、同専攻科		89
第4章 管理運営		
I 運営体制		94
II 教員の人事		99
III 事務局		101
IV 財 政		102
V 施設の整備と管理		103
第5章 学生生活		
I 入 学		112
II 暮らし		113
III 健 康		115
IV 自治活動		116
V 卒業および後援会、同窓会		117
第6章 学外との交流		
I 地域社会との交流		119
II 研究活動、国際交流		123
資 料		126
随想・論説		178
年表（20年間の歩み）		210
委員名簿		212
編集後記		213

凡 例

- (1) 富山県立大学と富山県立大学短期大学部とを総称して、富山県立大学という。
- (2) 誤解ないしは混同を招かない限り、下記の略称を用いる。

学 部 等	正 式 名 称	略 称
工学部	教養教育 機械システム工学科 電子情報工学科 知能デザイン工学科 情報システム工学科 生物工学科 環境工学科 生物工学研究センター	教養教育 機械システム 電子情報 知能デザイン 情報システム 生物工学 環境工学 生物センター
大学院 工学研究科	機械システム工学専攻 電子情報工学専攻 知能デザイン工学専攻 情報システム工学専攻 生物工学専攻	機械システム 電子情報 知能デザイン 情報システム 生物工学
短期大学部	教養教育等 農業技術学科生物生産専攻 同 農業土木専攻 環境工学科 環境システム工学科	教養教育 生物生産 農業土木 環境工学 環境システム
同専攻科	生物資源専攻 地域環境工学専攻 環境システム工学専攻	生物資源 地域環境 環境システム

- (3) 工学部と大学院工学研究科は、本来は異なる組織であるが、工学部の各学科に大学院の各専攻が続いているので、特に区別をする必要がない限り、前記(2)に記したように、同じ略称を用いる。
- (4) 大学院工学研究科の各専攻においては、設置から2年間は修士課程、その後に博士後期課程（博士課程）が設置されてから以降は、博士前期課程（修士課程）と博士後期課程とよぶのが正式であるが、文脈に応じて正式名称と通称（カッコ内）とを使い分ける。
- (5) 大学院の教員はすべて工学部の教員でもあるので、第3章研究においては、工学部・大学院としてまとめ、各教員が所属する学科にて記述する。
- (6) 第3章研究においては、教員の所属が変わった場合には、2010年3月に所属するもしくは退職時に所属していた学科、講座において記述する。
 「第3章研究」においては、講座および部門ごとにまとめて記述するが、その場合、講座・部門の名称を、たとえば機械エネルギー工学講座を機械エネルギー工学というように、簡略化して記述する。
- (7) 学校教育法改正により2007年4月から職名変更：助教授→准教授、助手→助教
- (8) 引用文書は、随時略称を用いる。

富山県高等教育機関整備推進委員会『“富山県における新大学の基本的あり方”について（提言）』、1987年（昭和62）3月
 （略称）「提言」。